

03

2012年 8月 8日

編集：荒浜再生を願う会
「希望の黄色い
ハンカチ大作戦」事務局
発行：NPO まちの縁側育くみ隊
(問合せ：事務局 052-201-9878)

通信

荒浜

COMMUNITY PAPER

希望の黄色いハンカチ大作戦
荒浜と世界各地のひとびと交流の軌跡

PICK UP

今週一枚



自分たちの土地に根ざした
歴史や暮らしの文化を自分
たちで絶対に守ろうとする
ひとたちと、それを許さな
い上からの強制力を告発的
思いで描いた一枚(台湾より)

「希望の黄色いハンカチ 大作戦」のとりくみ経過

ブログで紹介している活動の様子を抜粋
してお届けします。

【荒浜より】楽しい活動を重ねながら、

戦略的再生プランを！



7月23日
(月) 19時
から荒浜再生
を願う会、定
例会。志縁メ
ンバーのみな
さんもあつま
って久しぶり
の拡大版会議
となり、あら
ためて今後の
進め方、意気
込みを確認し
あいました。

荒浜の「ふるさと」蘇生活動―現地でみんな 汗をかこう

私たちがふるさととっているものは何で
しょうか。今日まで、再生を願う会は会合だ
けでなく、荒浜小学校の清掃や浜の清掃（両



清掃活動終了後、荒浜小学校の屋上でそろって記念写真。皆さん、ほんとうにありがとうございました。

日とも200人集ま
りました！、現地で
バーベキューをした
り、みんなで汗かいて、
食を共にして、思い出
を語って、そんなこ
とをしてきました。こ
のこと自体「ふるさと」
なのかもしれません。
こうしてお腹を満た
して、手をうごかして
自主性をもつ動きを
重ねていきながら、仲
間増やしをし、「ふる
さと」をみんなで取り
戻していく動きをし
ていこう！という話
で盛り上がりました。

ふるさと」蘇生、活動の趣味いろいろ

アイデア出ました！

★伝統行事を重ねよう

「盆踊りや、貞山掘りの灯笼流しなど、集落
の行事をきちんと重ねていこう。行事を縁の
下の力持ちとして支えていく立場になって初
めて「伝統」という言葉を言えますよね」

★清掃活動で荒浜を綺麗にして、魂を供養しよ う

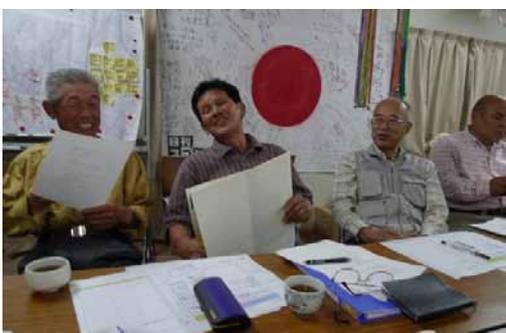
「清掃活動は手を緩めてはいけません。清掃に
参加してくれた200人中荒浜の人は30名。



これでは悲しい。厳し
い思いをした人には
「死にに來い」といっ
ているようなのかも
しれないけれど、やは
り、一歩ずつ、進まな
いと。196名の魂が
いますから。魂は怖い
ものではないから、供
養することが大事。」

「お盆も近い、お墓の
整理を自分たちでやろう！重い墓石の整備も
現場に行けば知恵が出る。」

★田んぼをみんなで作ろう！農業のすごい



「技」を分かち合おう
「震災前もずっと旧
暦で過ごしてきた。私
の農業暦（日誌帳）は
しっかり頭にインプ
ットされているから、
米も野菜も自分の好
きなように、言うこと
を聞く野菜に育てる
ことができるんです。
『俺が野菜に実れ、と
言ったら実る』（よし

お）（写真一番左がよしおさん）

①まずはよしおさんの田のゴミ取りしよう
（こまいゴミがまだ残っている）

② 来年から始められるように種もみ用意しよう
★海の恵みを分かち合おう！

「つりに行ってみました。イシモチもスズキ（70cm!）もとれました。放射線量も一切でなかった。塩焼きにしておいしく食べましたよ！」

★植生研究く元の自然豊かな荒浜にするには？

「自然体験が捨てがたい。自然が厳しいから切磋琢磨して、助け合って向き合っていた。自然が豊かなことは、人呼びこみます。どういう植物を植えれば、など研究したい。」
① 今荒浜で生きている植物探しタンケン
② 荒浜に相應しい、植生。集落の安全を守る植物は？の学習

荒浜の人と、応援してくれる人など仲間集めをしよう！

このような「ふるさと」蘇生活動を通して、仲間を巻き込んでいく方向性が見えてきました。

「デモンストレーション！署名！市民活動！」

「土日にもいつも慰霊塔の前で、見学に来た人呼びとめて30分位話をして、想いを伝えていきます。『また来て下さい』という安心して帰っていかれます。おなじ目にあった他地区の人も、『身一つで逃げるだけなんだよ』と。そういう話を聞くと、戻れる、と思っ

勇氣もわいてきます。人を泣かせる語りもできるようになってます（笑）」

「思いがちゅうぶらりんのところがあって、気持ちをしつかりもちたいから参加しています。」こんな風にとにかく参加してみても、みんなど考えるところという気持ちがいいですね。そういう仲間を増やすためにも楽しい活動を重ねましょう！

不安もあります。

「行政とどう向き合うか」
「世間は『高台移転ありき』で話が進められている。話が世の中に伝わらないので、疲れ切っています。変化のある集まりを工夫したいです。」

荒浜再生イメージ



■（模型は東北工大新井研の佐々木さんの卒業設計。夢ある提案を元にイメージを広げたり、現実的提案を模索したり）

荒浜フォーラム（2012.5.12）で提起された「総体安全」の考え方を軸に、この間、自然と共生の農・漁と暮らしのある現地再建のあり方を巡って議論してきました。①避難計画・避難訓練活動などソフトのしくみづくり、②安心安全の集落配置（避難拠点と住戸配置、交通計画等）といったハード提案、③危機感の共有や助け合いの精神育んでいくハード。このソフト、ハード、ハードの合わせ技としての『総体安全』を目指す議論は今後も重ねていきます。荒浜のふるさとを思う方々、是非議論に参加して下さいね！

★この日はこんなことがつばやかれました←ハード面では

① 集団か分散か（個別分散、小集団分散、拠点集約、など・・・）住戸配置
「景観を損なわないように、やはり元住んでいた敷地で再建したい。」
「現実的には、集団を形成した方がいい。お墓を囲んでまずは〇〇世帯位からはじめて、その後賛同する人が増えて集落を形成できれば。」
② 避難拠点や交通計画など全体について
「海水浴の避難所を兼ねた嵩上げを県道（巨理塩釜線）の沿道にこっつけて集落を形成する。公共的で、行政がその気になる案を。」
③ 巨理塩釜線について心配なこと
「県道を今の位置で嵩上げすると仙台市街地が水溜になってしまう。」

「千年に1回と言われている津波と、豪雨などの毎年くる水害の対応」

★ソフト面

1) 助ける人助けられる人々、演習避難計画

2) 免死亡要因調査

3) 産業振興について。全体的に岩手、宮城、福島がどうやって生きていくのか。

観光と言うけれども、コンクリートだけのところに誰が観光にくるのか。コンクリートは500年もつのか。

★ハート！

津波体験伝承の絵本、紙芝居づくりと読み聞かせ活動など

応援に駆け付けてくれた方々のお話

延藤安弘さん (愛知産業大学大学院教授)

「毎週再生の息吹の感じられるいいお話をしておられますね。みなさんが荒浜再生の活動をいきいき起こしをしながら、行政には政策提言を行っていくという橋渡しをしてくれるようトヨタ財団の政策助成に応募していました。これが通りました。評価されたポイントは、もともと地域がもっている「しなやかな復元力」を活かした再生計画をつくる考え方についてです。ふるさと蘇生活動おこしを重ねましょう！」

宮西悠司さん (神戸長田区真野の震災復興まちづくりの経験から)



「とにかく『ふるさと』の言葉で代表されるものを集めましょう。その活動を通して、今主体的な10人にとにかく200人の規模を目標にして何度も何度も重ねる。数の力でふるさとの実態をつくっていく。食の暦などはたくさんの人をひきつけるしかけになります。」

今西肇さん (東北工業大学 都市マネジメント学科教授)

「行政と向きあっていくには、戦略的マネジメントが必要ですよ！ 具体的現実的な線はどこか見極めましょう。あとは、生き生きとした働き方をしていくのがいいですね。再生案については、一世代だけでなくみなさんのお子さんが離れないようなまちにして下さい。」

新井信幸さん (東北工業大学工学部講師)

「国は最大級の津波には避難対応、防災集団移転も全て整備するには予算が足りない状況。「減災」というレベルを提案していくことはむしろ現実的で、今の計画の見直しというのはなくはないと考えています。」



■写真：左今西さん、右新井さん

石井山竜平さん (東北大学大学院教育学研究科准教授)

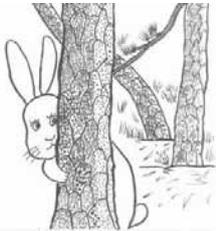
「福島をまわって、人が生きていたとは思えない地域をみました。その後荒浜をみて、『生きていく』と思いました。そこに思い持っている人がおられる痕跡があって、可能性がある。一年半こうして活動を続けてこられた人がおられるんですね。」

堀薫夫さん (大阪教育大学教授)

「レジリエンス(しなやかな回復力)という、ボールが跳ね返っていく力をコミュニティはもっています。集団そのものが本質です。みなさんの活動がさらなる学びとなって、回復していきますよ。」

名畑恵さん (名古屋から ZO 法人まちの縁側育くみ隊)

「私のお父さんはすっかり荒浜のファンで、自分のふるさととの記憶と重ねながら毎日毎日、もう200枚以上のふるさとを絵にしています。荒浜の「ふるさと」はファンをひきつける。家族みんなファンです！」



■写真：お父さんの絵を紹介する名畑さん

やりとりで明らかになった今後の見通しについて、延藤さんがまとめてくれました。

『楽しい活動を重ねながら、戦略的プランをつくって行政に』『いい話だな』と言わせよう』

- ① 安心楽しさのふるさと蘇生活動を重ねよう
- ② ラッキーな自然との共生の漁・農と暮らし
- ③ ハード・ソフト・ハートを組み合わせる

総体安全

④ まあるく開かれた集落配置計画へ
頭文字をつなぐと、、、「あ・ら・は・ま」になりました！

「あ・ら・は・ま」戦略プランと戦略マネジメントをみんなで練り上げていきましょう！



再生を願う会
貴田会長より
ひとこと！

将来像がみえてきている、将来像ふくめた仲間づくりをやっている！

荒浜再生を願う会

「ふるさと座談会」

パート2 (連載です。)

荒浜の過去のやすらぎとしあわせな暮らし・営みの思い出をつぶやいき、現在の不安定さ・抑圧をはねつけ、乗りこえていくための未来を探します。

【佐藤秀子編】(2) 荒浜の暮らし

地元の人がいなくて海岸の安全を誰が守るのでしょうか。

100万人都市に唯一の海水浴場は再開するんです。でも地元の人がいなくて、よそからまちの人が泳ぎにきたら、誰が守るんだろう、って思うんです。去年の夏でさえ既に海水パンプで泳いでた人たちいるんですから、まちから来る人は怖さを知らないんです。今まで自治体とか、地元の人には住んで、いろんな工夫してが守ってきたんです。一日に10万人来るときもあるんだから。私たち怖さもわかっているし、あと3、4年したら夏の暑さで絶対人がおしよせてきます。その時どうなるんだらう、って。地元の人「つぶやき」を尊重しないで(荒浜を住めなくして)、安全が守れるんでしょうか。

土用波の怖さ。

荒浜は平たんに見えるんだけどいきなり深いきつくなる場所があるんです。だから土用波がうんときつくなると、私が小さいとき、「また死んだ人があったー」って、子どもながらどぎえもんの人たちいっぱい見たことあるんです。それを見るから、子どもの頃から安全に海で遊ぶのが習慣なんです。

日本さ本当に海に囲まれてるんだから、

「共生」なんです。

私も夏の売店(海の家)やってるもんだから、2か月は海さ行くんです。なんといっても砂浜に降りた時の実感。子どもも小さいころからおんぶしながらかき氷つくったり、おもて立って呼び込みしたりいろんなことをやりました。砂の暑さとか。暑くて裸足で歩けないんです。日本さ本当は海に囲まれてるんだから、「共生」とか「共存」っていうのも視野に入れないと。海との共生なんです。それこそ漁師の人たちもいなくなるんじゃないですか

【秀子さんの話をうけて座談】

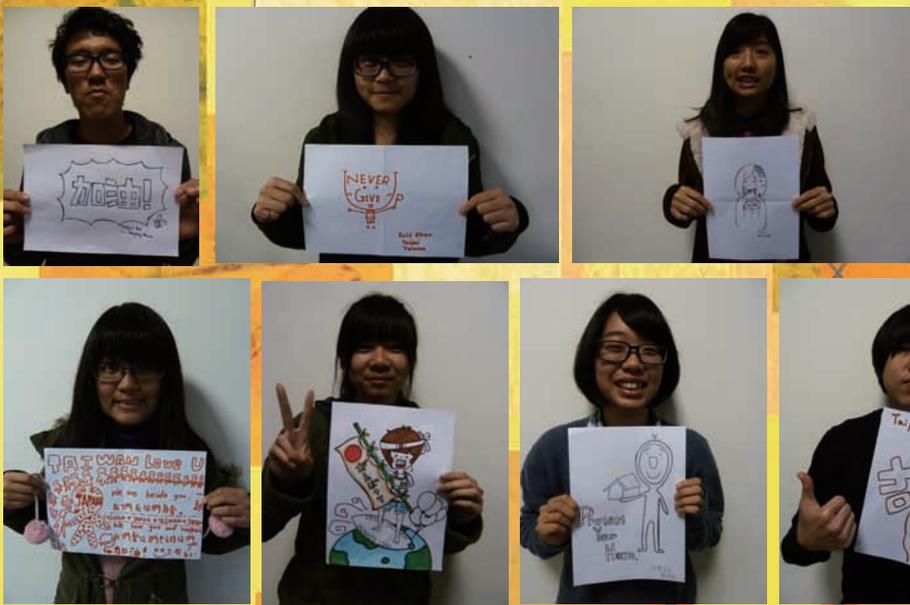
「恵み」と「怖さ」のある海との共生。

土用波や荒らしが好き、との意見も。「はじめとり」といって、海が荒れた後、昆布やわかめの流れていくのをとりにいく。茹でてばたばた叩いてごはんにかけるとおいしいんですよ！と、海がもたらす恵みについての思い出談義。

応援メッセージ

全国各地、世界から、荒浜を応援する声が届いています。今回ご紹介するのは、
 ①台湾の学生で、同じく台湾での災害後の問題に関心のある若者たち②ルカイ族(台湾原住民)で移転をせまられるという同じ立場で、自分たちの文化・歴史を守ろうとする人たち③日本各地からの応援

①



②



③



〈荒浜からのメッセージ〉

がれきの中から泥まみれで回収された たった一本の黄色の旗。
 仙台荒浜(深沼)で親しまれている浄土寺の五色旗のうちの黄色だけがみつかったとき、ふるさと再生への希望の象徴だと住民たちはつぶやいた。

荒浜は、希望を黄色いハンカチに託します。
 みなさん応援してください

荒浜再生を願う会

